

第5回あさひかわ北彩都ガーデン利用促進検討懇談会 議事録

開催日時：平成29年12月21日（木）午後2時～午後3時30分

開催場所：あさひかわ北彩都ガーデン ガーデンセンター

1. 開会

2. 議事

(事務局)

最初に報告事項です。11月にタイのバンコクで、国際造園家連盟アジアパシフィック支部の第10回ランドスケープ・アーキテクチャー賞の授賞式が行われ、あさひかわ北彩都ガーデンが「文化的かつ都市的な景観部門」で最優秀賞を受賞しました。また、「公園緑地部門」でも奨励賞を受賞しました。

審査員講評に書かれていますが、公共空間として総合的に評価されていることと、ガーデンと市民ボランティアとの結びつきについても評価をいただきました。

(進行)

事務局から資料について説明願います。

(事務局)

この懇談会は今年の1月から4月までの間に4回開催し、参加者の皆さんからいただいた御意見を参考として、「あさひかわ北彩都ガーデン利活用計画」を5月末に作成して公表しました。計画公表の後、植栽に係る設計作業を進め、その内容について詰めてきました。

第5回懇談会開催の趣旨は、植栽設計等の内容が固まったことから、先に定めた、ガーデン利活用計画をどのような形で具体化していくのかを、皆さんに説明いたします。

また、イベント等のソフト事業の実施状況と、ガーデンの運営状況についても説明します。

最初にガーデンの植栽設計についてです。

利活用計画でお示しした整備計画図から、今シーズンの利用形態を加味して、若干の修正を行っています。修正箇所は、アイランドボーダー花壇の配置で、イベントを行う際の人だまりスペースを確保するために、2箇所に分けて配置することとしました。また、ウォーターフロントガーデンの植栽面積について、小規模売店の売り場の窓を芝生側にも設けたことから、小規模売店前の花壇を芝生に変更しています。

ウォーターフロントガーデンは、今回の整備の目玉となる場所で、大池、旭川駅を背景とした、メインのフォトスポットに、旭山動物園を連想させるような、シンボルとなるホッキョクグマとアザラシの花のトピアリーを設置します。

背後には景観に額縁を作る役割のカツラ等の高木を植栽します。足下には草花を植栽し、大池の大景観に対して呼応するように大きな草花の景観を作り出すため、ストライプ状の配植とした花壇をつくります。

ホッキョククマの親子のトピアリーは、高さ2.8mで、草花のポットを差し込む立体花壇です。花株数は1,800株で、パンジーやゼラニウムなどを使って飾る予定です。花株で飾る際は、ガーデンサポーターの皆さんに手伝ってもらったり、市民イベントとして参加者を募ることも検討しています。

アザラシのトピアリーは、エケベリア、セダムなど多肉植物を植えこむ立体花壇です。発泡スチロールを躯体とし、そこに穴をあけて多肉植物を植えていきます。高さ90cmで、小型のものを2基置きます。

アイランドボーダー花壇は、芝生の中にくっきりと島状の一年草花壇が点在することで、芝生の中を回遊しながら花を楽しめるようにします。一年草の植え替えは年2回を予定しています。イベント開催時の人だまりスペースを確保するため、大きく2箇所に分けて植栽します。花は、チューリップ、パンジー、サルビア、ガーデンダリアなどを植え、入れ替えしながら、季節によって変わる風景を作ります。

ウェルカムガーデンは、仮にガーデンを有料化した場合、入園料を受け付けで払った後、最初に目にする場所なので、印象的なしつらえにするため、川のまち旭川を象徴するヤナギを用いた、大きな造形物を置く予定です。足元には一年草を植栽し、風景に変化をつけます。

ヤナギの動物園は、市民参加型で制作するヤナギの動物造形を配置するエリアとします。講師の指導のもと、「シダレヤナギ」や「サンゴミズキ」など細くて枝の色が鮮やかな素材を、鋼材フレームやスタイロフォームで制作した躯体に巻き付けて行く形で動物の造形をつくり出します。例えばエゾシカの造形を作る場合は、製作済みの胴体と顔に、市民参加で手足を制作して、それを取り付けて完成させるというようなやり方で、動物造形を制作することを考えています。

ユジノサハリンスク友好ガーデンは、今年整備を行いました。8月には、ガーデンサポーターさんの協力を得て、花株の植栽作業を行い、9月に仕上げのナナカマド記念植樹をユジノサハリンスク市職員の方も交えて一緒に行いました。

この花壇は、ユジノサハリンスク市の市章の基調色となっている水色を主体としたボーダーガーデンと、サハリンに自生し、北海道の高山でも見られる高山植物を植えたロックガーデン風の花壇で構成されます。ユジノサハリンスク市長のメッセージを書いた記念銘板も設置しています。

小規模売店は、11月末に完成しました。今まではガーデンセンターの中で、クッキーやハーブティーなどを販売していましたが、来シーズンは、より充実した物販を行えると思います。来年はゴールデンウィークくらいからこの販売小屋で物販を行いたいと考えています。

エントランスは、ガーデンセンターの入口横にあるレイズドベッドに、植栽ができるように加工したイスを置いて、訪れた人を迎える空間を作ります。植栽は毎年植え替えて変化をつけたいと思います。

Garden Hill Studio は、眺めのよい広場をスタジオのように貸し出し、パーティーやヨガなどに使える象徴的な芝生広場とします。木製コンテナガーデンやテーブルベンチ・パラソルなどの配置も予定しています。芝生を整備することで、さらに利用の幅が広がればと考えています。

ガーデンラウンジは、芝生広場に面して、アイランドボーダーや芝生の広がり、大池への景観をゆったりとくつろぎながら楽しむことができるラウンジ空間とします。人工芝で制作したソファを配置し、ゆっくりくつろげるとともに、写真映えする空間とします。

くつろぎの森にはゆったり木陰でくつろげるような、ベンチシートなどを設置して、ガーデン全体と大池までの大きな景観が楽しめる場とします。

庭の家具美術館では、カツラ広場に花と緑を植栽した家具を展示するパレット型のガーデンが点在する空間をつくり出します。テーマを変えて市民参加型のコンテストの実施も検討します。パレットは移動可能なように、出来る限り軽量の素材で制作し、テーブルベンチは、屋外で耐久性のあるものの中から、旭川家具を連想させるような形状のものを選定し配置したいと考えています。

以上、ガーデン利活用計画の策定以降に決まった、植栽設計の詳細内容についてでした。

次に、ガーデン利活用計画後半にあります、イベント等のソフト事業について、今シーズンの実施状況と合わせて、ガーデンの運営状況についてです。

(イベントの実施状況、サポーターの活動状況等について写真を見ながら説明。)

以上、今シーズンのガーデンの運営状況についてでした。

次にガーデンの今後の予定についてです。

整備については今年度整備したユジノガーデン、小規模売店に引き続き、来年度、残りのものについて整備を行っていきます。今回の北彩都ガーデンの整備は、特に宮前公園西エリアについて、他のガーデンエリアと差別化した空間とし、仮に有料化した場合でも利用者の方に満足していただけるような、魅力的な空間づくりを行うとして始めました。計画のコンセプトとして「リビングガーデン」というテーマを設け、まちなかだからこそできる生活提案型のガーデンというコンセプトとしました。リビングガーデンは現状のガーデンに、生き物の花のトピアリーでできた「生き物の庭」、家具に草花を植栽した「くらしの庭」、ヤナギの枝を使って造形をつくり出す「生きている庭」で構成されています。このコンセプトが利用者に伝わるような整備を行っていきたいと思います。

整備費についてですが、説明したものを全て整備した場合は、約3,600万円の整備費を必要とします。また、イスやテーブルセット、コンテナなどの備品費として約500万円が必要であり、整備が終わった後の維持管理費の増額分として、植え替え用の花株購

入費も含め、約800万円を見積もっています。整備を進めることで、植栽する花株数も増えますし、また1年草の入れ替えも考えているので、当然維持管理費は増額となります。

今後も魅力あるガーデンとして、持続的に質を確保しながら、必要となる経費をどうしていくのかということを考え、利用者の皆さんにも協力していただく手法について、今、検討しているところです。例えば、ガーデンの有料化については、昨年5月にパブリックコメントを実施し、入園料の例を示しながら意見を伺いました。入園料をいただく以外の手法で協力してもらう方法はないかということの検討例として、金銭的サポーター制度の創設というものを上げています。他都市の事例紹介として、山口県宇部市のときわ公園で行っているサポーター制度の資料をお配りしています。これは市民や企業、団体から1口1,000円から協力金を集め、公園の管理運営費に充てるというものです。北彩都ガーデンにこの手法を当てはめるとしたら、例えば、来年整備を予定している、ホッキョクグマのトピアリーやアイランドボーダー花壇の1年草の花株購入費として使わせていただくことなどが考えられます。

もうひとつ、募金箱の設置して寄附をいただくという例を書いています。これは、秩父別町のローズガーデンちっぷべつ等で行っています。

増額となる維持管理費を捻出するのに、協力を得る手法は、まだ、最終的にどうするとは決まっていますが、市民や観光客の皆さんの理解をいただける手法を考えたいと思っています。

また、来年度の整備の内容についても、今後かかってくる維持管理費や、利用者に協力をいただく手法等も考慮に入れて検討する必要があります。ガーデンのコンセプトが利用者に伝わるような整備、多くの市民や観光客に来ていただき、利用者に喜んでいただけるガーデンとしての整備を行っていきたいと考えているので、その点に留意しながら、来年度の整備の内容についても判断したいと考えています。

来年度のイベントについては、今年のスケジュールをベースに同じように行うことを考えていますが、各イベントの開催日数を少なくして、内容の密度を上げることも検討していきます。ガーデン利活用計画の中でも述べているとおり、整備だけではなく、イベント実施による北彩都ガーデンの周知も大切なことと考えているので、引き続き利用者によるこんでもらえるようなイベントを企画していきます。

(進行)

ここまで、事務局にガーデンの整備内容とイベント実施等、ガーデンの運営状況、今後のスケジュールについて説明していただきました。

事務局の説明を聞いての参加者の皆さんの感想はいかがでしょう。

(参加者)

金銭的サポーター制度について、表彰や返礼について具体的なイメージはありますか？

(事務局)

サポーター証の発行やホームページやガーデンセンター内にお名前を表示することなど

が考えられますが、まだどういう手法がいいのか、詳細は決まっておられません。

(参加者)

これからまだまだ整備が進んでいく中で、観光客の方にどのタイミングでしかけていったらいいでしょうか。人気のある上野ファームのツアーに合わせて、もう一か所立ち寄る場所として、「これからこうなりますよ」という含みを持たせて案内することもできると思います。

(事務局)

来年度もイベントの実施状況と調整しながら整備工事を進めていきます。今回、設計内容は出来上がりましたので、来年度の予算や経費が固まった時点で、来年度はこうなりますよ、と言えらと思います。

(参加者)

例えば、他都市では、花畑で朝食を食べる、などの企画が人気があります。朝の清涼な空気や北海道らしいロケーション、そのような企画を組み込みたいと考えています。

(参加者)

Garden Hill Studioにはレストランを作る計画がありましたよね？もしできたら入園料を払って入るのでしょうか？

(事務局)

まだ、やりたいという事業者が現れないので、当面は広場として利用していただくことを考えています。

入園料をいただくとは決定していませんが、もしそうなればレストラン利用者については対応を考える必要があります。

(参加者)

イベントの説明の中で、指定管理者が実施するものと市が実施するものを分けて発表する必要があるのでしょうか？

(事務局)

市民の方に対しては、「北彩都ガーデン」のイベントとして理解していただければいいと思いますが、懇談会での説明においては実施状況がわかりやすいようにいたしました。

(参加者)

ウェルカムガーデンに花をたくさん植えるようですが、今のハーブを植え替えるのですか？

(事務局)

今ある花壇は残し、芝生の部分に新たに植栽する予定です。

(参加者)

今年はシャトルバスに乗ったり、足湯にも入りました。ガーデナーの方に説明を受けながら歩いたのですが、とても楽しく、見る角度が違ってきました。これからも楽しみです、熱くお客様をご案内できるのではないかと思います。

(参加者)

イベントに来る人がもっと多くなればいいな、と思います。イベントの時も入園料を取るようになるのでしょうか？

(事務局)

イベントの時は、講座などの参加費として材料費をいただくことはあります。入園料をいただくか決まっています。

(参加者)

サポーターはガーデンが有料になると思っていますが。

(事務局)

維持管理費が現在の6,200万円から、整備を進めることで800万円増えて約7,000万円になると試算しています。その一部を、何らかの形で補えないか検討している中の一つの入園料をいただくということで、他都市で行っているような別の方法も検討していますので、まだ決まっていない状況です。

(参加者)

維持費が増えた分を入園料で補うという考え方ではなく、旭川市の名所として旭山動物園と並ぶところにしていきたい、というのが発想ですから、みんなが来て「お金払ってもいいよ」と思ってもらえるぐらいにしておかないと。

(事務局)

維持管理費に対し、少し協力を求め軽減したい、という思いがあります。有料化というのはわかりやすい方法ですが、他に方法があれば検討したいと思っています。

(参加者)

お花だけでなく、ボランティアやスタッフが気持ちよく迎えてくれたから、また行きたいなと思ってくれるようにしたいですね。旅行って、景色だけでなく、そこで会った人が素晴らしいな、っていう人も相当いるのでは？

(参加者)

訪日外国人は、よく話してみると日本人に会いに来ている部分もあります。景色や食事だけでなく、優しい日本人のことをどんどん好きになって、また会いに来る。

(参加者)

サポーターもおもてなしの気持ちを持って皆さんに接していきたいです。お花の面と人の面と両方。

(進行)

旭川の代表的なガーデンになっていくためにはどうしたらいいか、と考えたときに、その時に最適な方法を選んでいくのがいいのではないのでしょうか。これから何十年、何百年と続いていく中で、維持管理の方法も変わっていくかもしれません。根本の部分は変わらなくても、臨機応変に対応していくことも必要になるかもしれません。

そのためにも、ガーデンを共にガーデンを支えたいと思ってもらえるよう形にしてくこ

とが大事だと思います。

有料化を想定して色々と考えてきましたが、その点も今後の課題ということですね。懇談会で色々と話し合ってきた中で、気になったことなどは市に聞いていただいたので、今後の運営に活かしていただけたらと思います。

(事務局)

皆様におかれましては、お忙しい中、本懇談会に御参加いただき、大変ありがとうございました。

今後はいただいた意見を参考とし、市民に愛され、育てていただけるようなガーデンをめざしたいと思いますし、観光客の方にも来ていただけるようにしていきたいと考えております。

本懇談会は今日で解散となりますが、皆さんガーデンや観光について精通されていて、ガーデンへの愛が深く、素晴らしい意見をいただけるので、今後の北彩都ガーデンの運営に際して相談したいことが出てきた時には、意見を伺う場を設けることができればとも考えておりますので、その際には、どうぞよろしく願いいたします。

これまで長い間、本当にありがとうございました。

(事務局)

以上を持ちまして、第5回北彩都ガーデン利用促進検討懇談会を終了します。本日はありがとうございました。